



日本文学（近代文学）史講義

第5回
明治30年代は最後のロマンの輝き！

1

硯友社の文学者たち①



広津 柳浪 (ひろつりゅうろう) 文久元年
6月8日 (1861年7月15日)



昭和3年 (1928年) 10月15日は、日本の小説家。本名、直人。
硯友社同人となり、「残菊」で認められる。「変百伝」「今戸心中」「黒熊編」などの低階級社会の暗部を描いた深刻小説、悲惨小説を発表した。小説家の広津柳浪は子。小説家の本井舟橋は弟子。
山内徳弘の勧めで、1887年 (明治20年)、処女作「女子参政権中絶」を書き、柳浪子と号して「東京絵入新聞」に連載する。翌年博文館に入り尾崎紅葉を知ると、硯友社同人となり「残菊」で認められた。東京中新聞、都新聞、改進黨新聞などを転々とし、「おのが罪」などを発表。1891年 (明治24年) には和部が生れた。次第に作風を変化させ、「黒熊編」(1895年)や「今戸心中」(1896年)などの作品は深刻小説、悲惨小説と呼ばれ注目された。1908年長編「心の火」を「二六新報」に連載後、創作活動は低調になり、明治の終わりに文壇から退いてしまった。1928年10月15日、心臓病のため死去した。

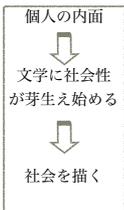
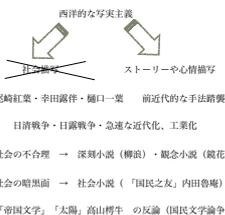
Dr. ヒッキー-日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

2

深刻小説・社会小説



坪内逍遙や二葉亭四迷



Dr. ヒッキー-日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

3

『不如帰』は、初の国民的ベストセラー



『不如帰』(ほととぎす)は、明治31年 (1898年) から
32年 (1899年) にかけて国民新聞に掲載された徳富
蘆花の小説。のちに出版されてベストセラーとなった。



片岡中村の愛娘道子は、陸軍少将藤川島武男と幸福な結婚生活を送るが、日清戦争で夫とは遠く離れ、冷たい継母、横恋慕する千々岩、気むずかしい姑に苦しみ、そのうえ結核のために離婚を強いられ、夫をしいつつ死んでゆく。道子の「ああ、人間はなぜ死ぬのでしょう！ 生きたいわ！ 千年も万年も生きたいわ！」は日本近代文学を代表する名セリフの一つとなった。

作中人物のモデルをめぐる興味、家庭内の新旧思想の対立と礼儀、伝染病に対する社会的な知識など当時の一般大衆の興味に合致し、広く読者を得た。また後にはこれを原作とした映画や演劇などの演劇作品が数多く制作されている。

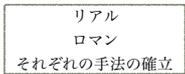
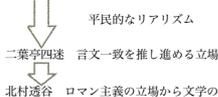
Dr. ヒッキー-日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

4

国民文学論の始まり



坪内逍遙 封建的イデオロギーからの解放



『帝國文学』、『太陽』 高山樗牛の反論 (上からの統一)

日清戦争・日露戦争・急速な近代化、工業化

平民社 『国民の友』 国木田独步・徳富蘆花 (下からの統一)



Dr. ヒッキー-日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

5

硯友社の文学者たち②



泉鏡花 (いづみ きょうか)、1873年 (明治6年)

11月4日 - 1939年 (昭和14年) 9月7日) は、



明治後期から昭和初期にかけて活躍した小説家。戯曲や俳句も手がけた。本名、鏡太郎。金沢市下新町生れ。

尾崎紅葉に師事した。『夜行巡査』『外科室』で評価を得、『高野聖』で人気作家になる。江戸文芸の影響を深くうけた怪奇趣味と特有のロマンティズムで知られる。また近代における幻想文学の先駆者としても評価される。代表作に『婦系図』『歌行燈』『夜叉ヶ池』『天守物語』など。

D r . ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

6

泉鏡花は、観念小説から幻想へ



泉鏡花は、日本では数少ない ロマン主義作家
幻想小説作家鏡花が最も得意とするものは、異界物



E x 「トリック」「水戸黄門」「千と千尋」「座頭市」

D r . ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

7

明治30年代は、ロマン主義全盛時代



与謝野鉄幹

与謝野鉄幹 (よしの てつかん)、1873年 (明治6年) 2月26日 - 1935年 (昭和10年) 3月26日) は、歌人、本名は寛、鉄幹は号、与謝野晶子の夫。



後に、慶應義塾大学教授。

1900年 (明治33年) 『明星』を創刊。北原白秋、吉井勇、石川啄木などを見出し、日本近代浪漫派の中心的な役割を果たした。しかし、当時無名の若手歌人であった晶子 (のち鉄幹夫人) との不和が問題され、文壇関係なる情状で様々な諷刺的な文章を綴った。だが、晶子が書いた文章は、晶子の歌集『みだれ髪』作風をアパロニス、愛麗野と讃賞、1901年 (明治34年) 晶子と再婚した男六女の子室に生まれた。

1901年8月、『みだれ髪』刊行、『みだれ髪』の名声は高く、『明星』における影響となり『明星』隆盛のきっかけとなった。1908年 (明治41年) 『明星』は第100号をもって廃刊。なお、1921年刊に第二次『明星』が創刊し、そして1927年に廃刊する。

結婚後の鉄幹は態度の不振に陥る。1911年 (明治44年)、晶子の許りでパリへ行く。この晶子も渡仏、フランス国内からロンドン、ウィーン、ベルリンを巡遊する。だが、創作活動が盛んとなったのは晶子の方で、鉄幹は依然不振を極めていた。再婚を懐疑した著作、誤訳集『リタの恋』も失敗するなど、常に含まれる影の形で苦悶に陥っていた。

D r . ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

8

与謝野晶子



与謝野晶子 (よしの あきこ) 與謝野晶子

明治11年 (1878年) 12月 - 昭和17年 (1942年)

5月29日) は明治時代から昭和時代にかけて活躍した大阪・堺市堺区出身の歌人、思想家。



歌集『みだれ髪』では、女性が自我や性愛を表現するなど考えられなかった時代に女性の官能をおおらかに詠い、浪漫派歌人としてのスタイルを確立。伝統的歌壇から反発を受けたが、世間の耳目を集めて熱狂的支持を受け、歌壇に多大な影響を及ぼすこととなった。所収の短歌にちなみ『やは肌の子』と呼ばれた。

<http://www.nhk.or.jp/10min/gendaibun/ja/frame.html?0809&18>

D r . ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

9

晶子は女性の愛情表現の解放に熱い！



やわ肌の
熱き血潮にふれも見で
さびしからずや
道を説く君
(与謝野晶子)

好きだから
一緒に寝ようよ
夜明けまで
理屈じゃないよ人生は・・・
(依万智)



性の解放

当時の性のあり方

※近代における同時代調査の重要性

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~cyberred/zoro.htm>

D r . ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

10

晶子の熱さは、 社会批評も呼ぶ！



明治37年(1904年)9月、半年前に召集され就軍次期戦に加わっていた弟を嘆いて『君死にたまふことなかれ』を『明星』に発表。

『すみれは戦いに おおみずからは出でまされ (天皇は戦争に自ら出かけられない)』

大野桂月の批評

『家が大事也、妻が大事也、国はにびてもよし、商人は戦ふべき義勇なしといふは、余りに大罪する言葉』

晶子は『明星』11月号に『ひらきふみ』を発表

『桂月様たいさう危険なる思想と御せられ候へど、当節のやうに死ねよ死ねよと申し候こと、またなにごとにも忠告愛国の文字や、其おほき教育御勸諭などを引きて論ずることの流行は、この方かへつて危険と申すものに候はずや』と国粋主義を非難し、『歌はまことの心を歌うもの』と桂月の批評を一顧した。

大野桂月は『太陽』誌上で論文『詩歌の消滅』を掲載し『皇室中心主義の眼を以て、晶子の詩を検すれば、乱臣なり賊子なり、国家の罪人を加ふべき罪人なりと絶叫せざるを得ざるものなり』と激しく非難

D.r. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

11

むくわれないキャラ、 まさに鉄幹の弟子！



石川 啄木 (いしかわたくぼく、1886年(明治19年)

2月20日 - 1912年(明治45年)4月13日) は明治時代

の歌人・詩人・評論家。本名は、石川一 (はじめ)。



『明星』を読んで与謝野晶子らの短歌に傾倒し、文学への志を固く。雑誌『明星』への投稿でつながりがあつた新詩社の集まりに参加、翌10日は与謝野夫妻を訪ねる。澤在は誌き作歌もするが出版社への就職がうまく行かず、結核の発病もあり、翌1903年(明治36年)2月、父に迎えられて故郷に帰る。5月から6月にかけて『若手日報』に評論を連載、11月には『明星』に再び短歌を発表し、新詩社同人となる。この頃から啄木のペンネームを使い始め、12月には啄木名で『明星』に長詩『愁調』を掲載、歌壇で注目される。

歌集は『一握の砂』『悲しき玩具』『時代閉塞の現状』

D.r. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

12

白秋は男性版の晶子？



北原 白秋 (きたはら はくしゅう、1885年(明治18年)1月25日 -

1942年(昭和17年)11月2日) は、日本の詩人、童謡作家、歌人。

詩、童謡、短歌以外にも、新民歌の分野にも傑作を残している。

1909年、『スバル』創刊に参加。木下らと詩誌『屋上庭園』創刊。また処女詩集『夢窓門』上梓。官能的、唯美的な象徴詩作品が話題となるも、年末には実家が破産し、一時帰郷を余儀なくされた。

1910年、『屋上庭園』二巻に掲載した白秋の詩『おかるの手』が風俗雑誌にあたること、発禁処分を受けた(同誌は年内に廃刊)。またこの年、松平辰子(後述)の隣家に転居。1911年、第二詩集『屋上庭園』再刊。故郷明川と続産した実家にさげられた横田の期が高く評価され、一躍文名は高くなる。また文芸誌『朱鷺』を創刊。1912年、母と弟妹を東京に呼び寄せ、年末には一人旅郷に残っていた父も上京する。

白秋は隣家にいた松平辰子と恋におちいたが、辰子は夫と別居中の人妻だった。2人は夫から暴行罪により告訴され、未決獄に拘置された。2週間後、弟らの尽力により釈放され、後に和解が成立して告訴は取り下げられた。人気詩人白秋の名声はスキャンダルによって地に墮ちた。この事件以降の白秋の詩風にも影響を与えたとされる。

D.r. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

13

言文一致運動



言文一致(げんぶんいっし)とは、明治時代に、今までの文語文にかわって日常語を用いて口語体に近い文章を書くことを主張し、実践した運動と、書かれた文章を指す。話し通りに文章として書くという意味ではない。

日本語の古典的な文体である文語は主に平安時代までに完成したものであるが、中世以降、次第に話し言葉との乖離が大きくなっていった。

二葉亭四迷『だ』調 ← 高瀬家の初代三葉亭四迷の漢語口演筆記

ツルゲーネフなどロシア文学作品を翻訳した文体

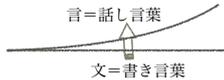
山田美妙『です・ます』調 → 漢語や蘭語の言語へ

尾崎紅葉『である』調 → 『だ』とともになかなか市民権がとれない！

評論 文語体 (漢文調) 調

親友社や一葉 雑文体 (文語体の中で英文を追求)

蘭語の文語調 『蘭語』など



D.r. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

14

昭和30年代は、 言文一致もすすむ



『日記』の流行

博文館(今は学級日誌の会社)が日記帳を発売

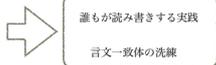


『写生文』の流行

身の周りの事物を写して、面白い文章を作るために「ありのまま見たまま」にその対象を模写する(正岡子規)

速記の必要→古文の文体では不向き

複雑な心情記録→古文の文体では不向き



言文一致を決定づけたのは、新聞+教科書+文学(写生文+自然主義)

D.r. ヒッキー日本文化研究所 http://homepage3.nifty.com/hikita_masaaki/

15

